

と信ずるところに依つて進むのを主義とした。だから時には曾て自からの強く主張したことゝ正反對の事を、きまり悪さうにもしないでやつて退けることもあつた。少しく立ち入つた話になるが、文學部の教授會では傳統的に事務關係の人は列席しないことになつてゐたので、記録及び事務の處理の上に於て不便が少くなかつた。それで自分がかゝる舊慣を改め、その列席を主張したことがあつたが、濱田君は強くこれに反對し、色々理由を述べ立てたので、遂に實現を見るに至らなかつた。ところがどうであらう、濱田君が學部長に就任すると、直ちに主任書記を教授會に列席させ、その理由として前に自分が提示したと同様の事を臆面もなく述べた。もともと自分は初めにその必要を説いたのであり、この際君の前言を想起して文句を挿めば、心境の變化であるとか何とかうまい逃げを打つにきまつてゐるのだから、知らぬ顔をしてすませたが、この種のことは時には忘れて、時には知つてゐても勇敢にやつて退け、敢て前言に拘泥しなかつた。無頓着といふか、線が太いといふか、兎も角中庸組には一寸出來ぬことで、快刀亂麻獨特の手腕を有した人であつた。かゝる際に適當な理屈をこじつけることは天才的に巧みであり、また少くともその際の主張を通すことには執拗でもあつて、既に圓熟の境地に入つた濱田君に於て、尙且つ往年の武者振りを想起せしめ、微苦笑を禁じ能はざらしむることも屢々であつた。

聰明であつたことも君の特徴として數へられねばならぬ。天品といふか境遇といふか、恐らく兩者相待つてであらうが、人事なり世事なり、恐らく吾々の仲間て君の如く要領を得た人、物の分りの善い人は無かつたであらう。洞察の明など、全く驚嘆せしめらるゝものがあつた。學問上に於ても同様で、細かにまた深く突き込むといふよりも、大切な點をその聰明さで要領よく捕へるのが特徴で、この點に於て他人の追隨を許さぬものがあつた。だから